UNIPRES
プレスの力で、未来にプラス。

2026年度第2四半期（中間期）決算報告

2026年11月27日　代表取締役　社長執行役員　浦西　信哉

UNIPRES CORPORATION

© UNIPRES CORPORATION, All Rights Reserved.

1. 2026年度第2四半期（中間期）決算について
2. 2026年度見通しについて
3. 2026-2028年度 中期経営方針の進捗

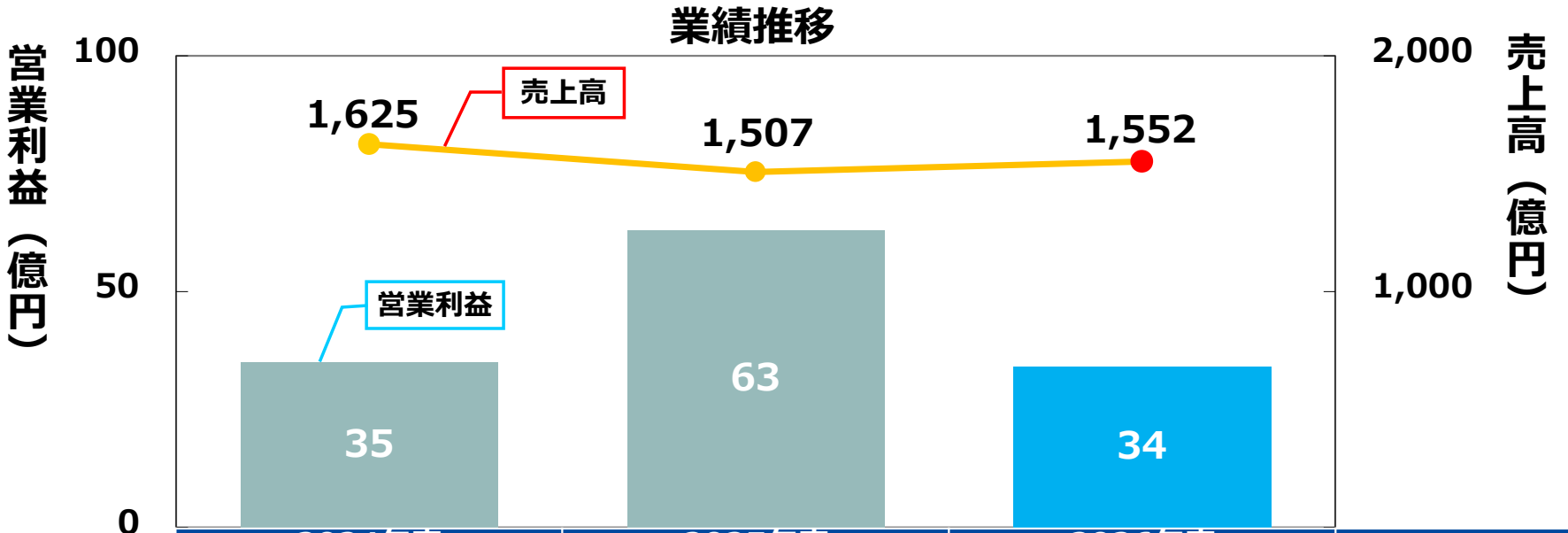
2026年度第2四半期（中間期）決算について

2026年度第2四半期（中間期）連結決算のポイント

売上高は、得意先の減産影響があったものの、
為替換算影響等により、１,５５２億円と増収。
営業利益は、操業度及び車種構成変化等により、
３４億円と減益。

2026年度第2四半期（中間期）連結決算サマリー

- 売上高は、前年同期比４５億円増収 （３.０%増)
- 営業利益は、前年同期比２９億円減益（４５.４%減）



	2024年度 中間期	2025年度 中間期（A）	2026年度 中間期（B）	（B）－（A）
売上高	1,625	1,507	1,552	+45
営業利益	35	63	34	-29
経常利益	44	62	39	-23
親会社株主に帰属する中間純利益	9	30	2	-28

製品群別連結売上構成

（億円）

	2025年度中間期		2026年度中間期		売上高増減	構成比増減
	売上高	構成比	売上高	構成比		
車体プレス部品	1,339	88.9%	1,396	89.9%	+57	+1.0%
精密プレス部品	138	9.1%	125	8.1%	-13	-1.0%
樹脂プレス部品	22	1.5%	22	1.4%	0	-0.1%
その他	8	0.5%	9	0.6%	+1	+0.1%
合計	1,507	100%	1,552	100%	+45	–

得意先別連結売上構成（日産自動車関連）

- 日産車体、北米日産等の増加はあったものの、メキシコ日産、東風汽車向け等の減少により、構成比は０.４%減少

（億円）

	2025年度中間期		2026年度中間期		構成比増減
	売上高	構成比	売上高	構成比	
日産自動車関連　小計	**1,121**	**74.4%**	**1,149**	**74.0%**	**-0.4%**
北米日産	252	16.7%	305	19.7%	+3.0%
メキシコ日産自動車	275	18.2%	232	14.9%	-3.3%
日産自動車（日本）	204	13.5%	202	13.0%	-0.5%
欧州日産自動車	126	8.4%	148	9.5%	+1.1%
日産車体	44	2.9%	98	6.3%	+3.4%
東風汽車	103	6.8%	70	4.5%	-2.3%
ジヤトコ（海外拠点含む）	71	4.7%	63	4.1%	-0.6%
マレリ（海外拠点含む）	18	1.2%	17	1.1%	-0.1%
ルノー日産インディア/インド日産	18	1.2%	14	0.9%	-0.3%

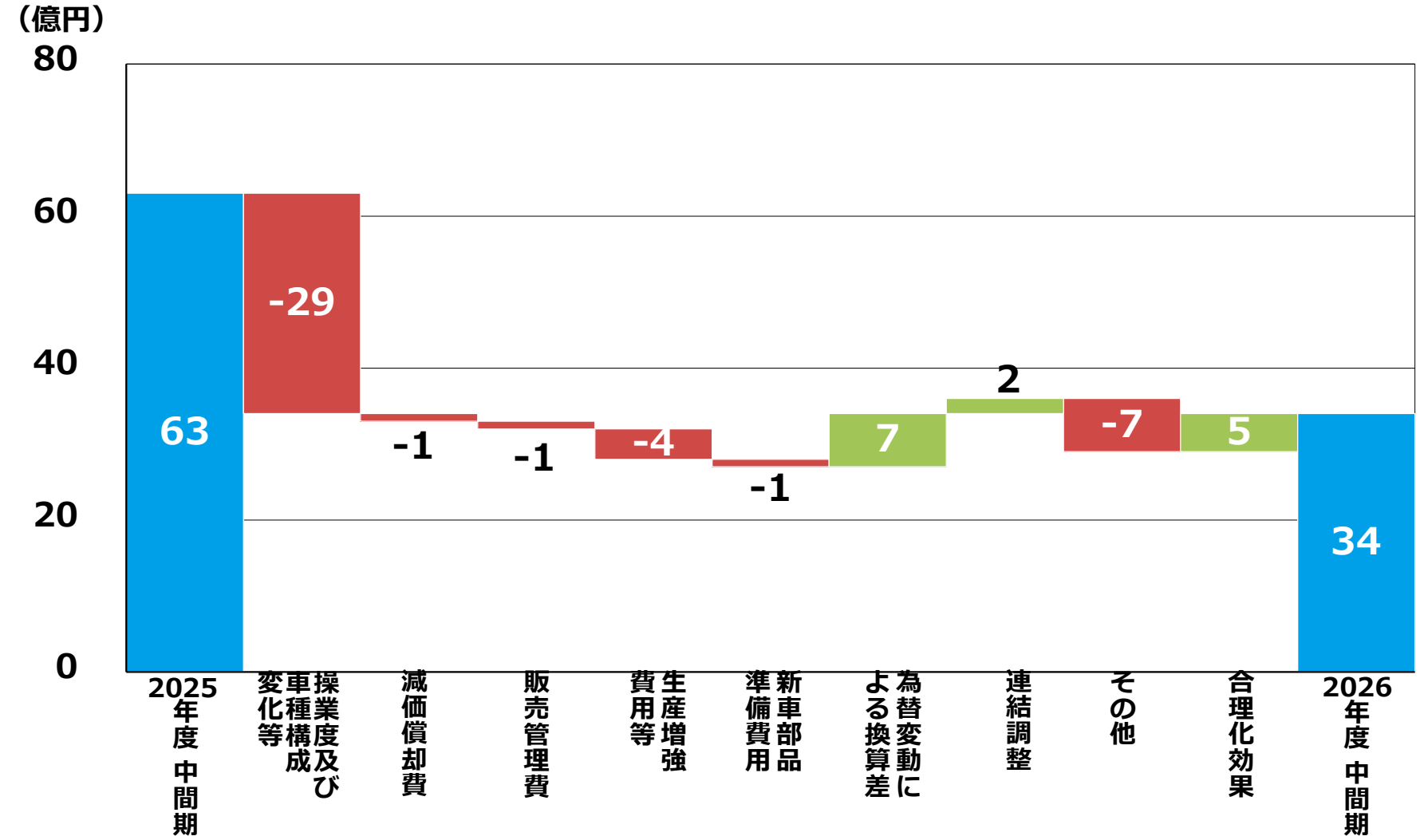
得意先別連結売上構成（日産自動車関連以外）

● ルノー、ルノー日産インディアおよび米国ホンダ向け等の増加により、構成比は０.4%増加

（億円）

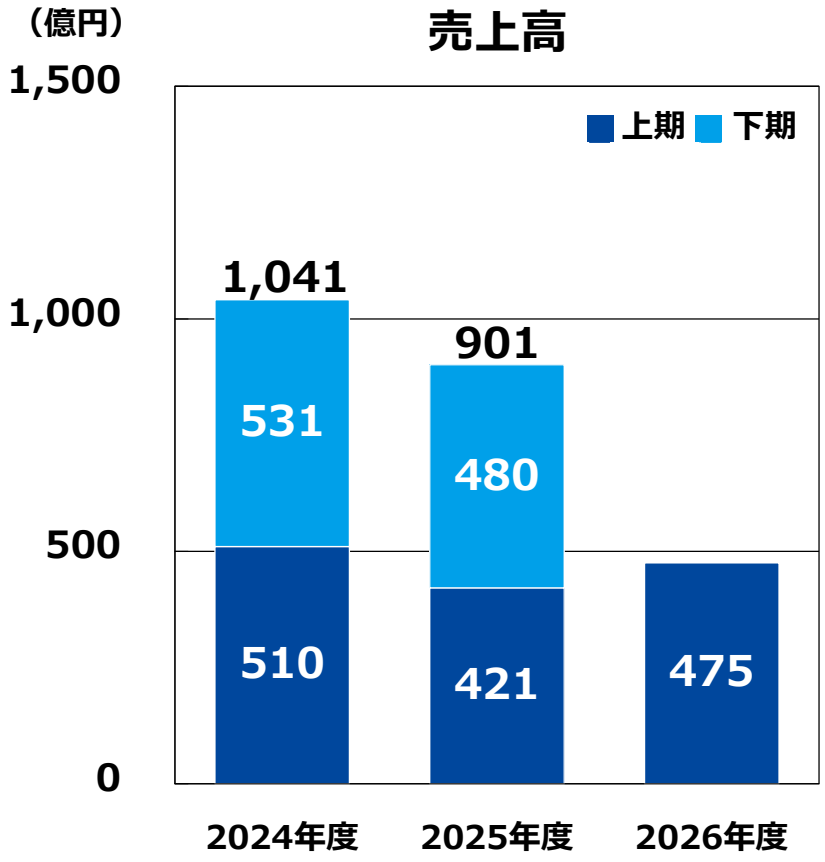
		2025年度中間期		2026年度中間期		構成比増減
		売上高	構成比	売上高	構成比	
日産自動車関連以外の得意先　小計		386	25.6%	403	26.0%	+0.4%
ホンダ	米国ホンダ	75.2	5.0%	87.5	5.6%	+0.6%
	メキシコホンダ	28.0	1.9%	24.8	1.6%	-0.3%
	本田技研工業（日本）	13.9	0.9%	14.3	0.9%	0.0%
	インドネシアホンダ	4.2	0.3%	3.0	0.2%	-0.1%
ルノー	ルノー	28.8	1.9%	48.5	3.1%	+1.2%
	ルノー日産インディア	6.0	0.4%	18.6	1.2%	+0.8%
三菱自動車工業（海外拠点含む）		57.7	3.8%	55.0	3.5%	-0.3%
ステランティス		18.6	1.2%	19.2	1.2%	0.0%
NIO		18.1	1.2%	18.9	1.2%	0.0%
マツダ	マツダ	10.2	0.7%	12.6	0.8%	+0.1%
	メキシコマツダ	6.3	0.4%	5.2	0.3%	-0.1%
アイシン （海外拠点含む）		22.4	1.5%	14.2	0.9%	-0.6%
ジヤトコ（日産以外）（海外拠点含む）		9.1	0.6%	9.1	0.6%	0.0%
武蔵精密工業（海外拠点含む）		6.0	0.4%	5.9	0.4%	0.0%
ダイナックス（海外拠点含む）		5.5	0.4%	4.7	0.3%	-0.1%
SUBARU		4.8	0.3%	3.9	0.3%	0.0%
スズキ（海外拠点含む）		1.8	0.1%	2.8	0.2%	+0.1%
豊田鉄工（海外拠点を含む）		1.8	0.1%	2.2	0.1%	0.0%
BYD		1.1	0.1%	1.5	0.1%	0.0%
UDトラックス		1.4	0.1%	1.4	0.1%	0.0%
日野自動車（海外拠点含む）		1.0	0.1%	1.1	0.1%	0.0%
いすゞ自動車（海外拠点含む）		1.0	0.1%	0.8	0.1%	0.0%

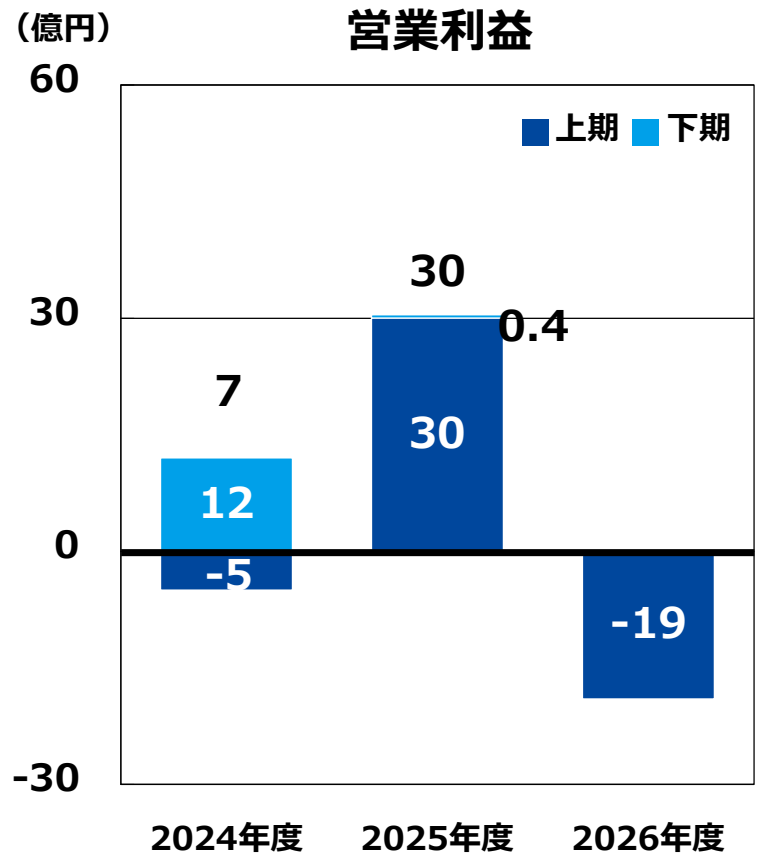
営業利益の増減要因


（億円）
80
60
40
20
0
63
-29
-1
-1
-4
-1
7
2
-7
5
34
2025年度 中間期
操業度及び車種構成変化等
減価償却費
販売管理費
生産増強費用等
新車部品準備費用
為替変動による換算差
連結調整
その他
合理化効果
2026年度 中間期

地域別売上高・営業利益（日本）

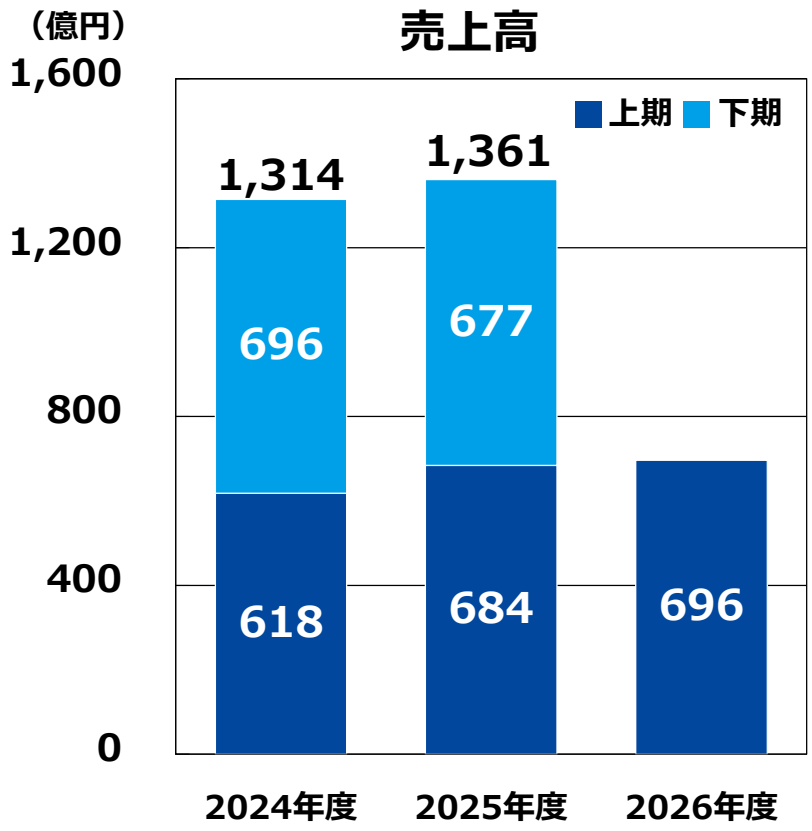
- 売上高は、得意先の増産影響等により、１２.８%増収
- 営業利益は、前期で発生した移転価格税制調整金の影響により、４９億円の減益

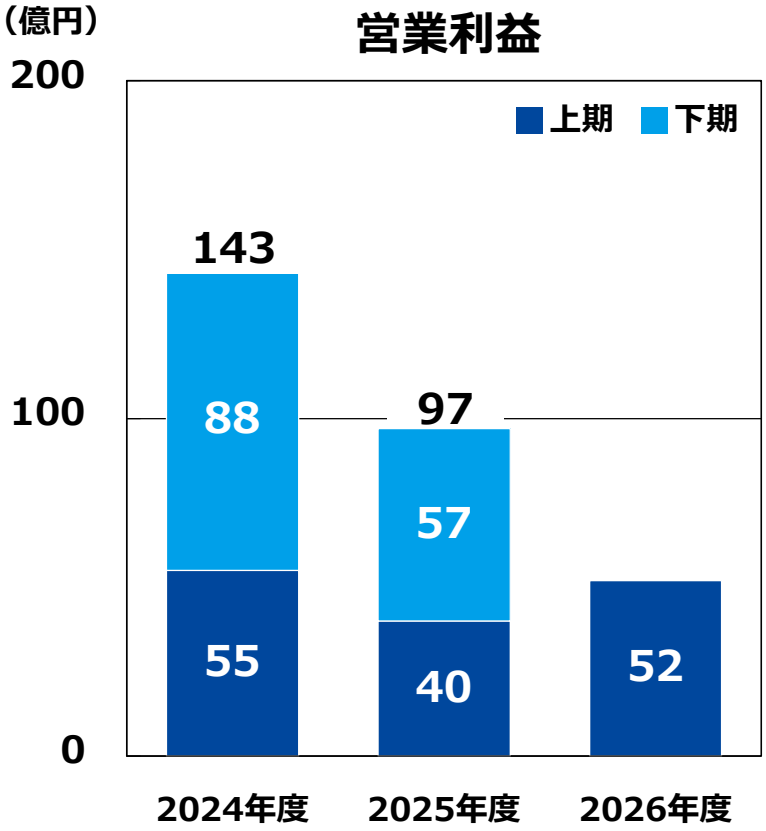




地域別売上高・営業利益（米州）

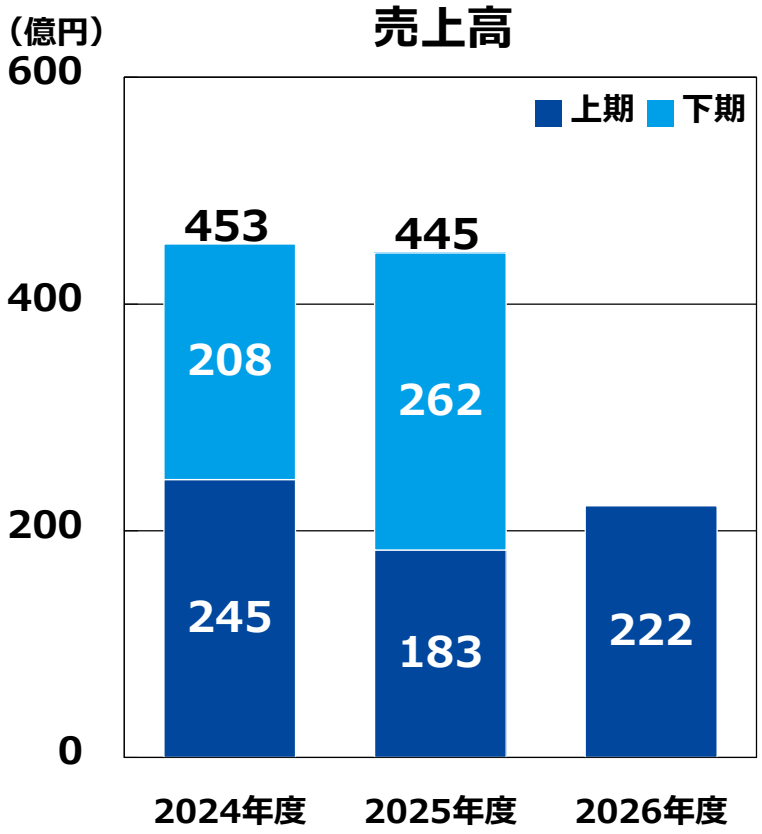
- 売上高は、為替換算影響等により、１.８%増収
- 営業利益は、操業度および車種構成変化等があったものの、前期で発生した移転価格税制調整金の影響により、１２億円の増益

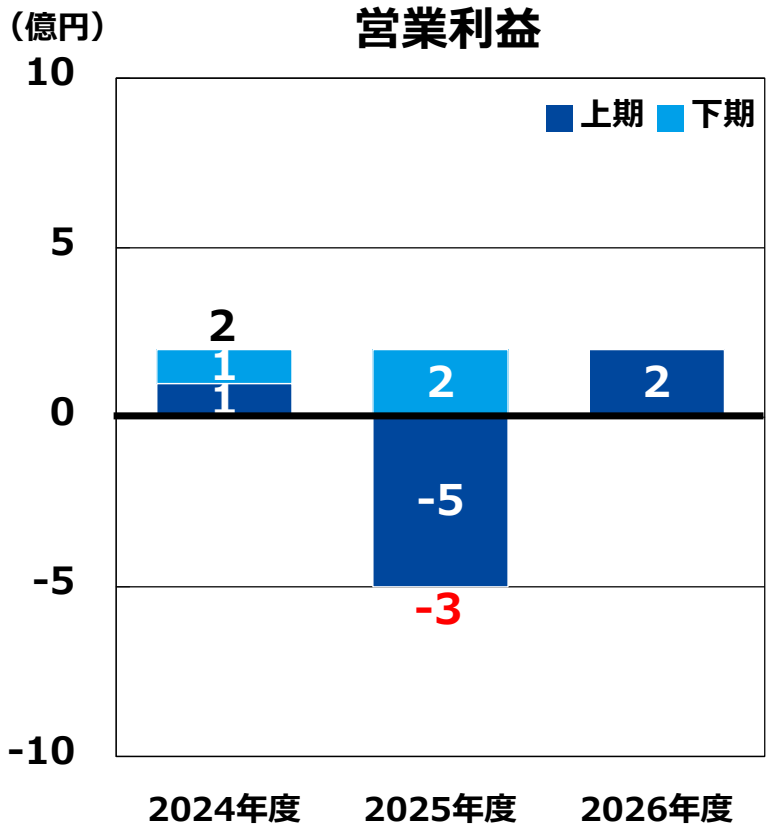




地域別売上高・営業利益（欧州）

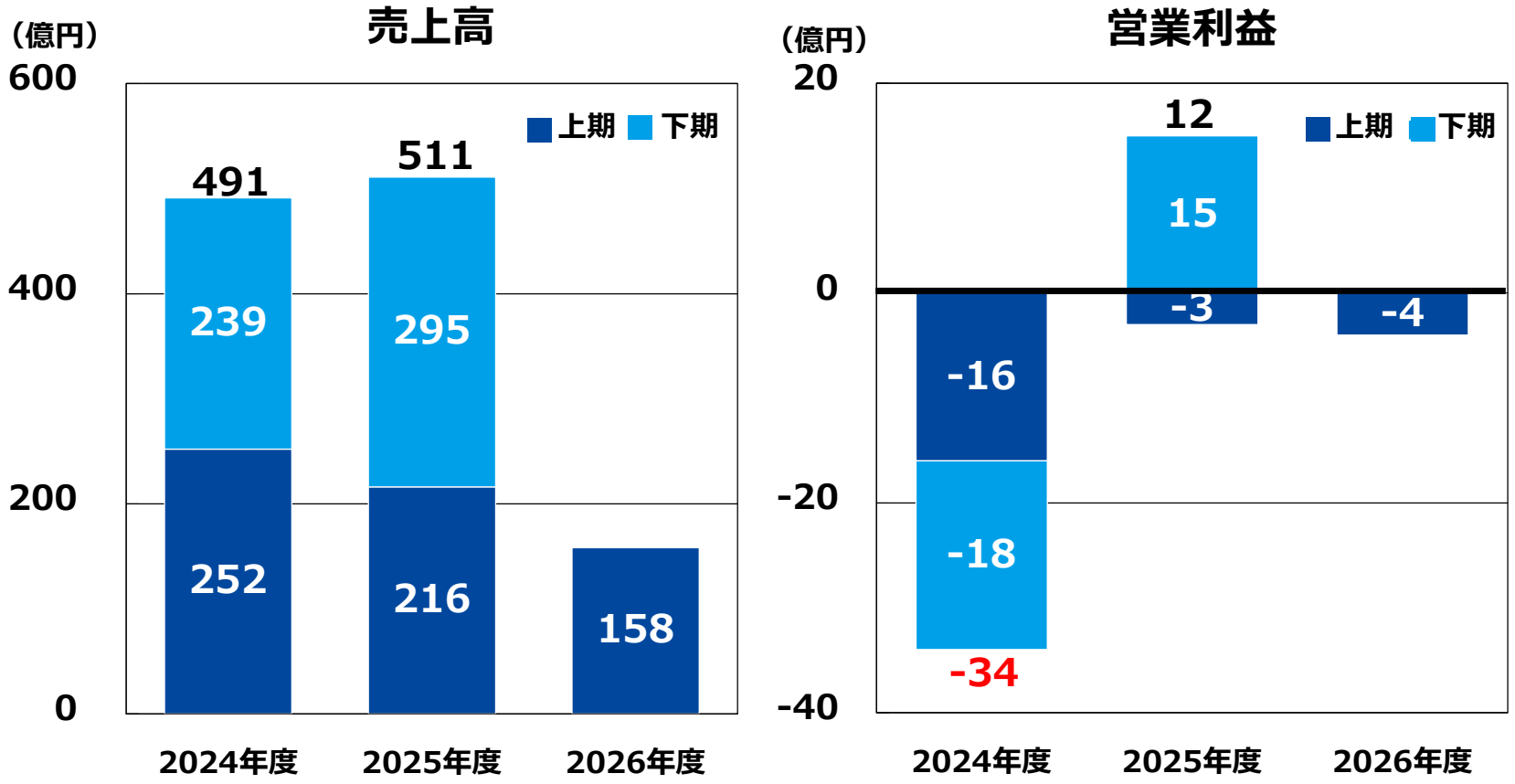
- 売上高は、為替換算影響および得意先の増産影響等により、２１.３%増収
- 営業利益は、売上増加の影響等により、２億円の黒字



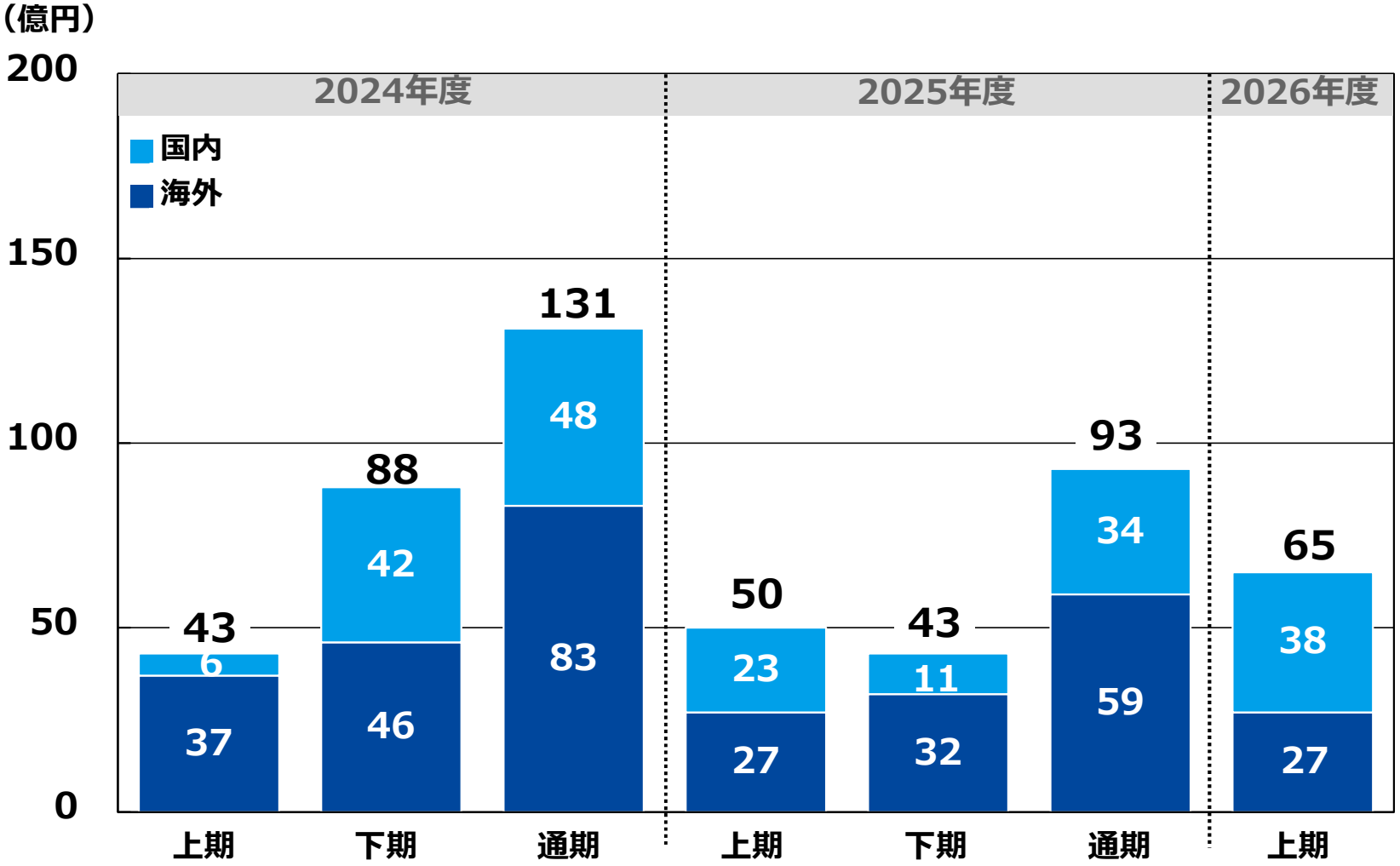


地域別売上高・営業利益（アジア）

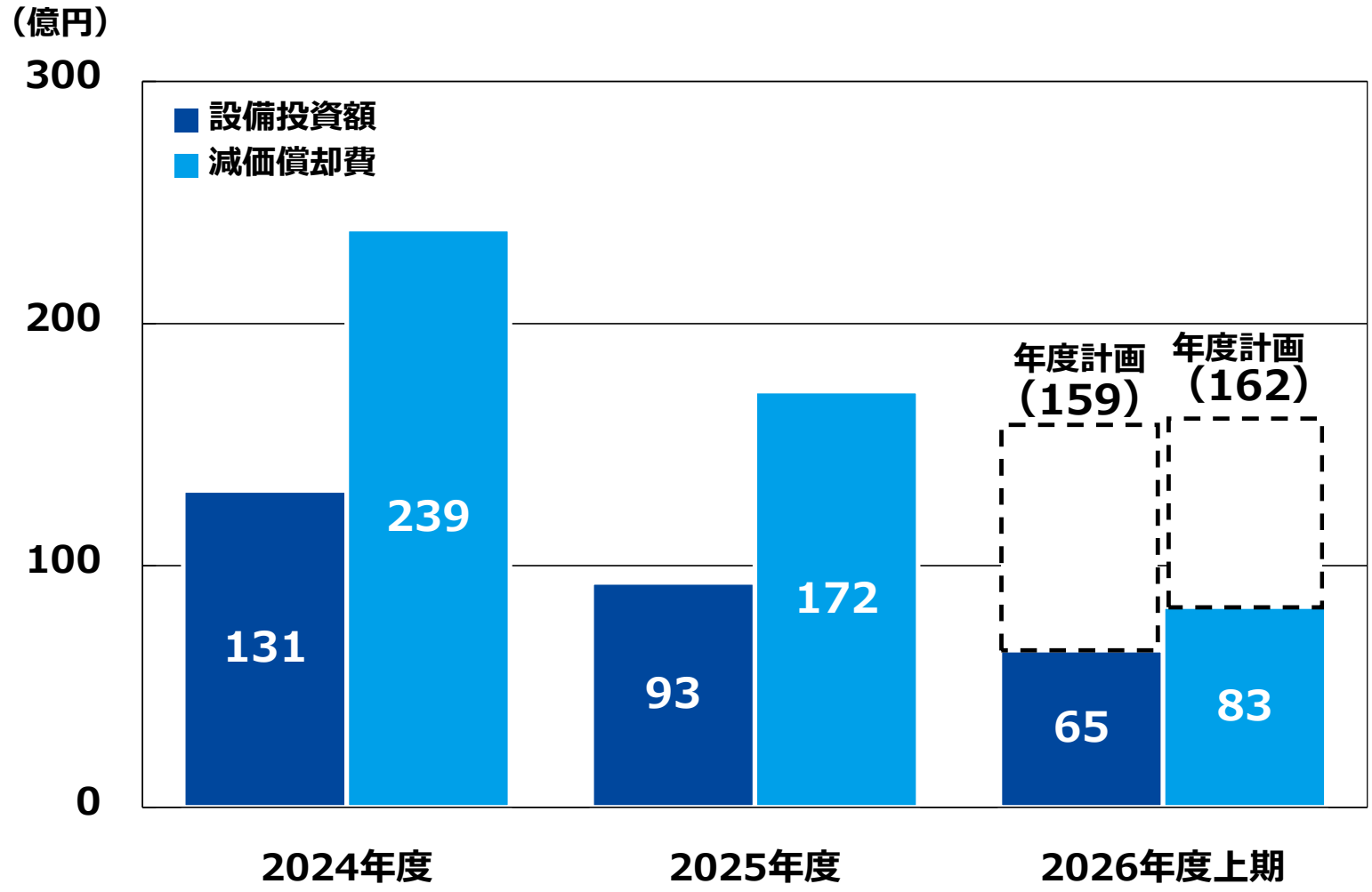
- 売上高は、得意先の減産影響および構造改革に伴う一部事業撤退等により、２６.９%減収
- 営業利益は、売上減少の影響等により、４億円の損失



設備投資額推移

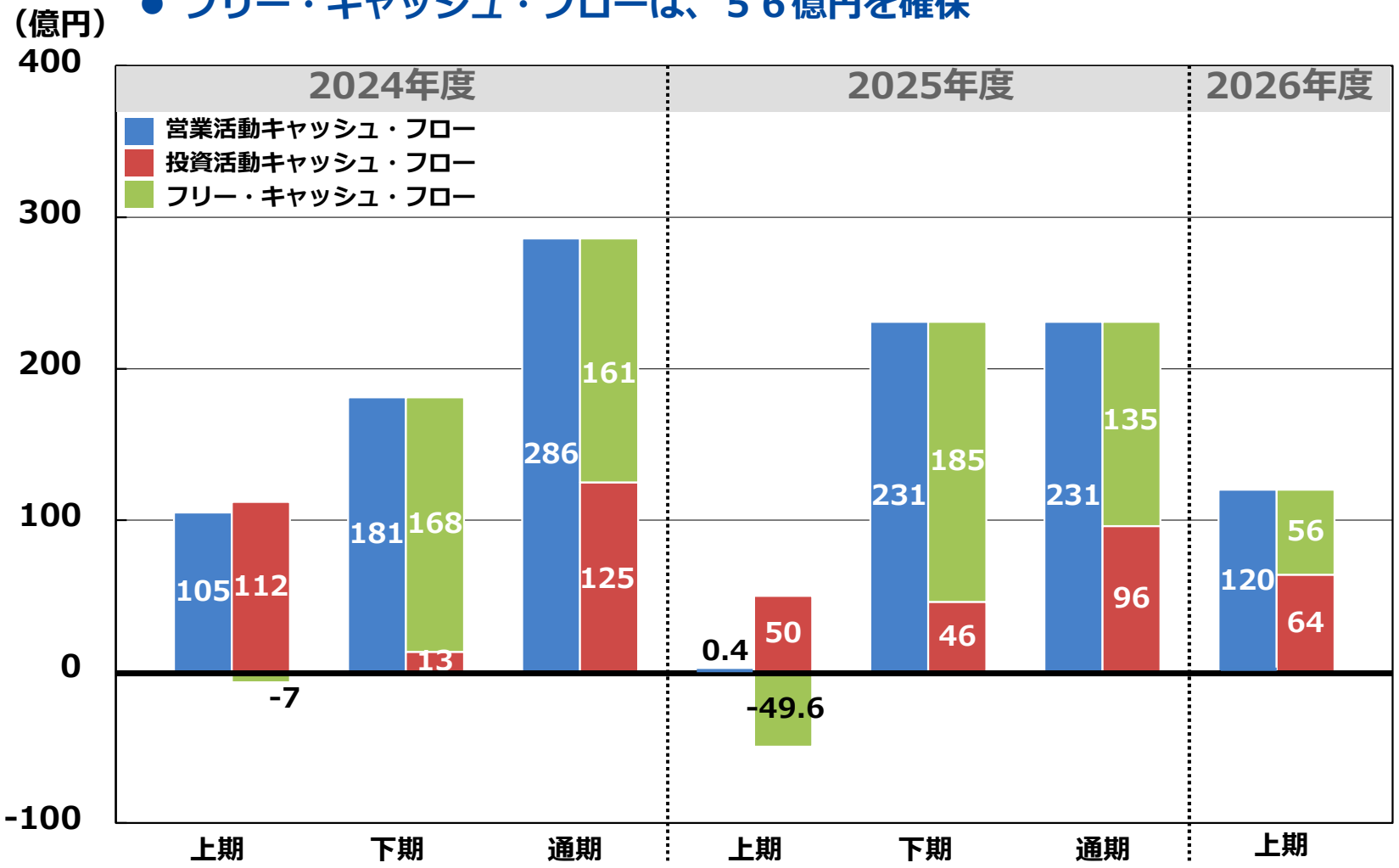

（億円）
200
150
100
50
0
2024年度
2025年度
2026年度
国内
海外
43
6
37
88
42
46
131
48
83
50
23
27
43
11
32
93
34
59
65
38
27
上期
下期
通期
上期
下期
通期
上期

設備投資額・減価償却費推移



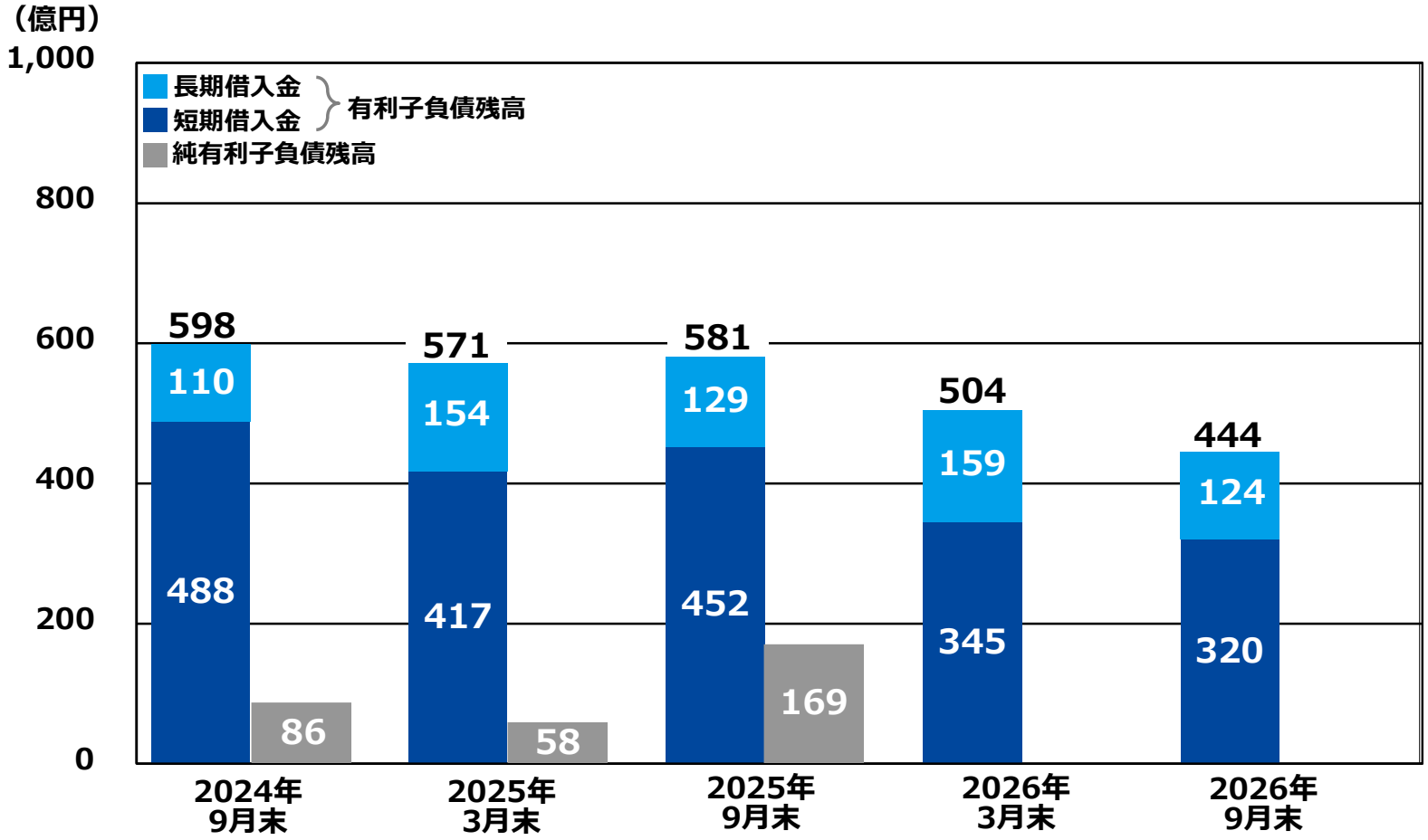
キャッシュ・フロー

● フリー・キャッシュ・フローは、５６億円を確保



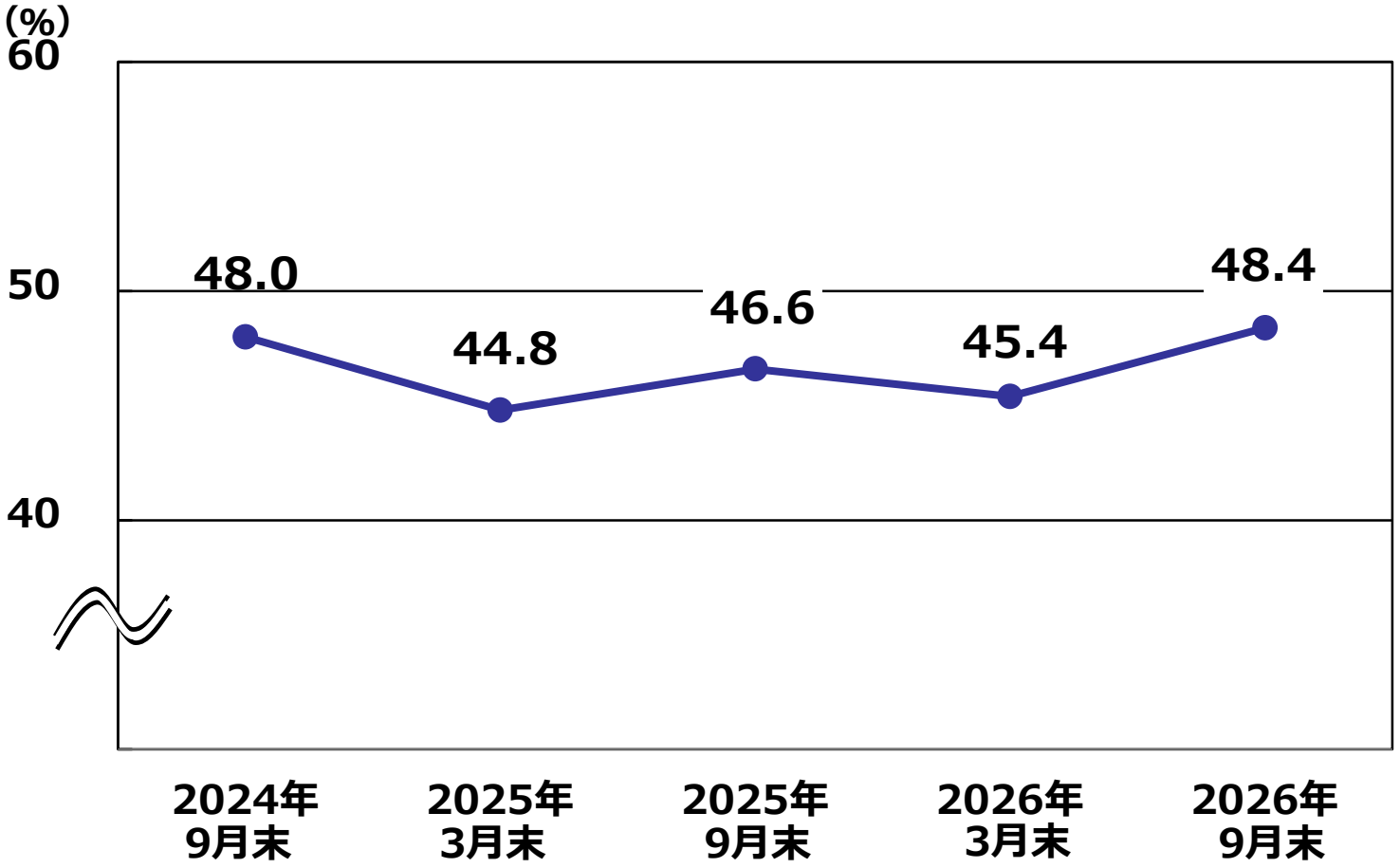
有利子負債・純有利子負債残高の推移

- 有利子負債は、前年度末に対して６０億円減少
- 現預金を含めた純有利子負債は、引き続き実質無借金



自己資本比率の推移

● 前年度末に対し３.０%増の４８.４%



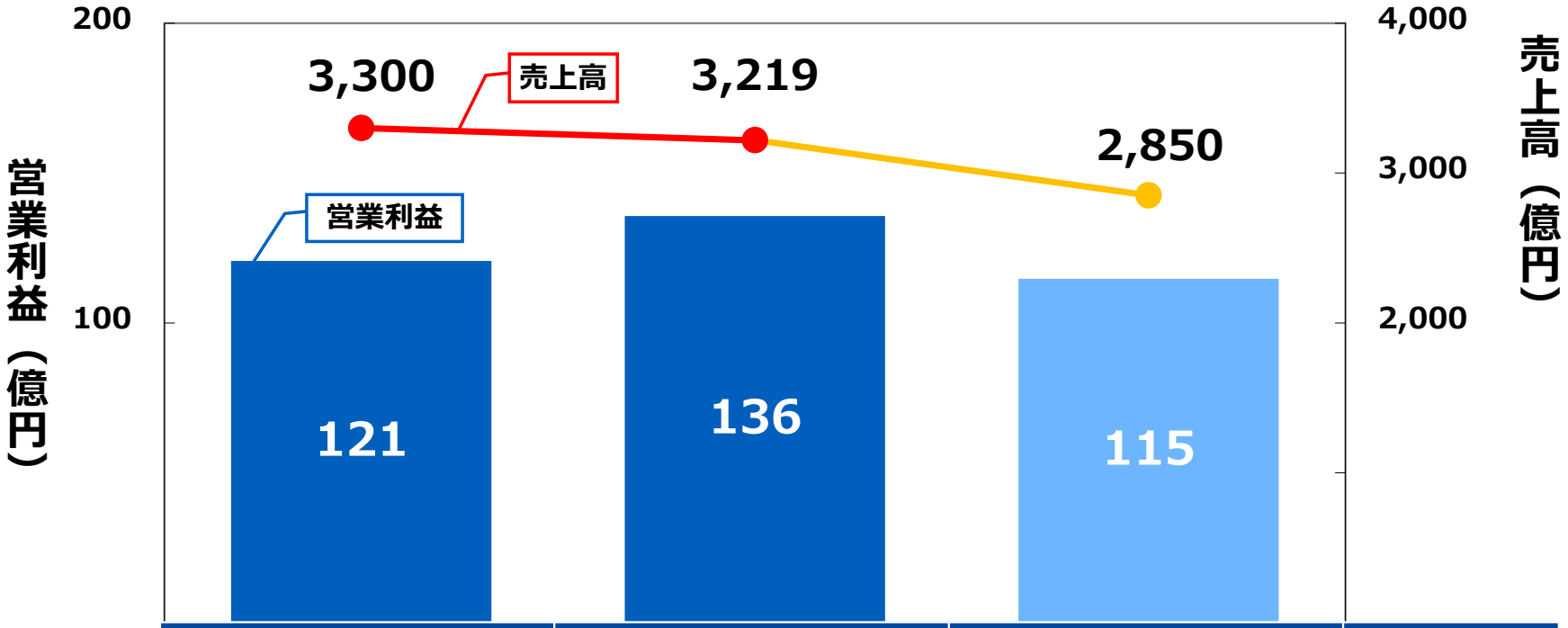
2026年度見通しについて

2026年度　連結業績見通しのポイント

1．　売上高は、金型売上の減少に加え、為替換算影響
　　および構造改革に伴う一部事業撤退等により、
　　減収見込み

2．営業利益は、合理化の効果はあるものの、
　　売上減少の影響等により、減益見込み

2026年度連結業績見通しサマリー



	2024年度	2025年度（A）	2026年度（B）	（B）-（A）
売上高	3,300	3,219	2,850	-369
営業利益	121	136	115	-21
経常利益	136	147	115	-32
親会社株主に帰属する当期純利益	-210	-83	45	+128

2026-2028年度 中期経営方針の進捗

環境認識と対処すべき課題

環境認識

自動車メーカー動向の変化

- 中国自動車メーカーの急速なグローバル展開
- EV化の鈍化による各自動車メーカー商品戦略の見直し

経済動向の不透明感

- 地政学リスクの高まり
- エネルギー価格・原材料価格の高騰に端を発したインフレ懸念

2026年度	2027年度以降

構造改革
最適な生産体制の構築

スマート化
コスト競争力の向上

成長戦略
戦略的技術開発の充実・加速

持続的な企業価値・株主価値の向上

事業・財務面だけでなく、各ステークホルダーに対する取り組みを強化

PBR向上

ROEの向上

事業戦略

- 最適な生産体制の構築
- スマート化によるコスト競争力の向上
- 戦略的技術開発の充実・加速

財務戦略

- 生産数量の変化に強い収益体質
- 事業構造に最適な自己資本

PERの改善

株主還元の充実

- DOEを指標とした配当政策
- 機動的な自己株式の取得

成長性への期待

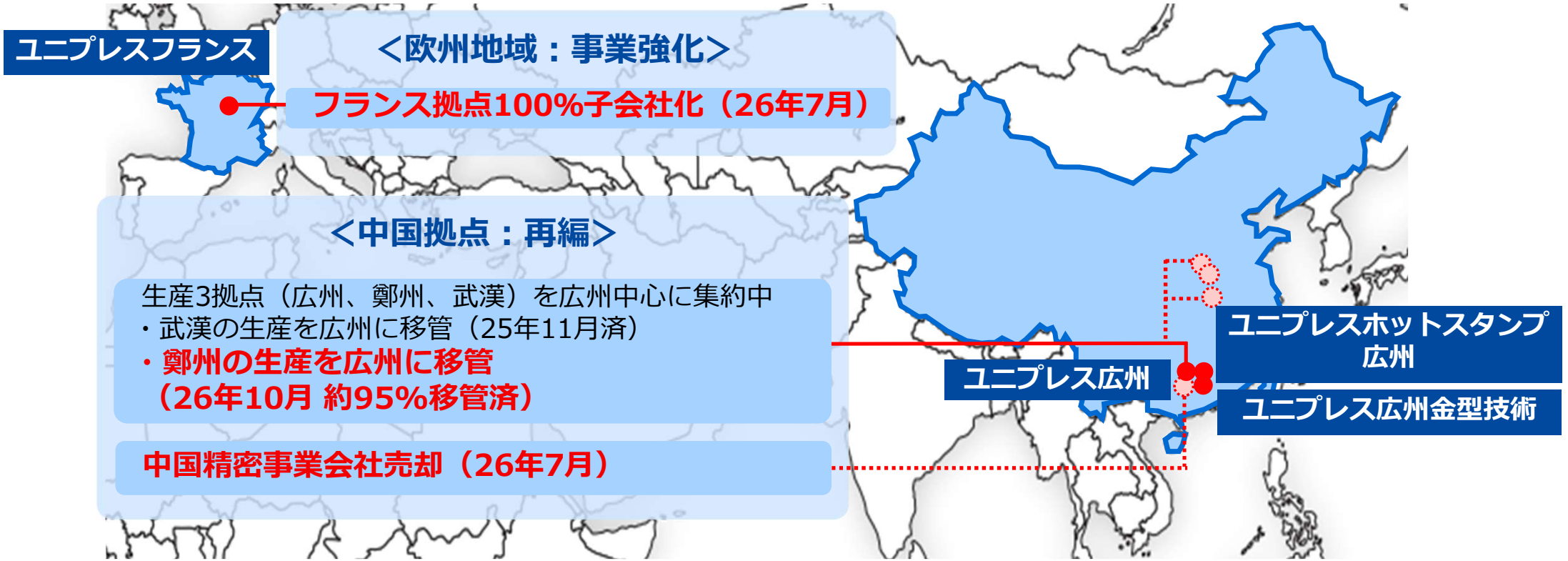
- サステナビリティ経営の推進
- 投資家との対話強化

【構造改革】最適な生産体制の構築

生産体制を抜本的に見直し

- 中国拠点数： 7 ⇒ 3
- フランス拠点を100%子会社化

●: 継続する拠点 ◌: 削減もしくは削減予定の拠点

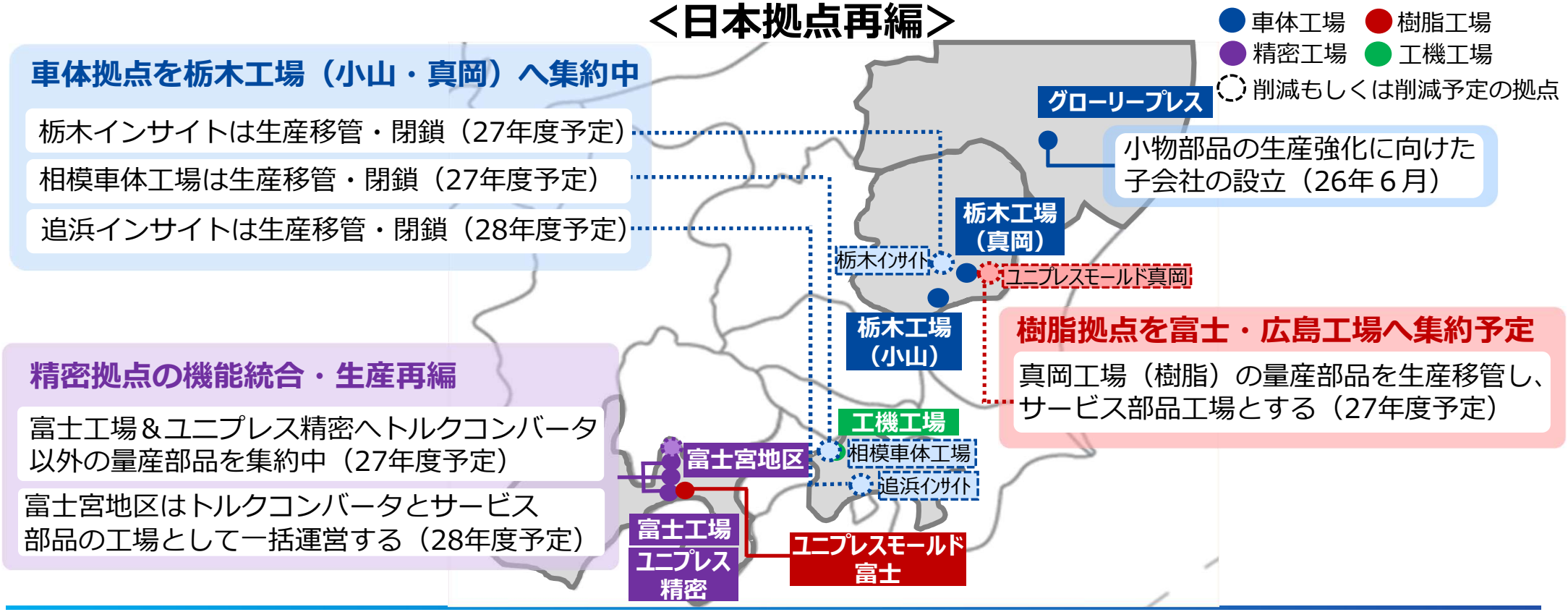


【構造改革】最適な生産体制の構築

日本拠点も大幅な再編を推進

- 車体事業　関東地域拠点数：５ ⇒ ２ ＋ １
- 精密事業　拠点数：４ ⇒ ３
- 樹脂事業　拠点数：３ ⇒ ２

＜日本拠点再編＞



車体拠点を栃木工場（小山・真岡）へ集約中

- 栃木インサイトは生産移管・閉鎖（27年度予定）
- 相模車体工場は生産移管・閉鎖（27年度予定）
- 追浜インサイトは生産移管・閉鎖（28年度予定）

樹脂拠点を富士・広島工場へ集約予定

真岡工場（樹脂）の量産部品を生産移管し、サービス部品工場とする（27年度予定）

精密拠点の機能統合・生産再編

- 富士工場＆ユニプレス精密へトルクコンバータ以外の量産部品を集約中（27年度予定）
- 富士宮地区はトルクコンバータとサービス部品の工場として一括運営する（28年度予定）

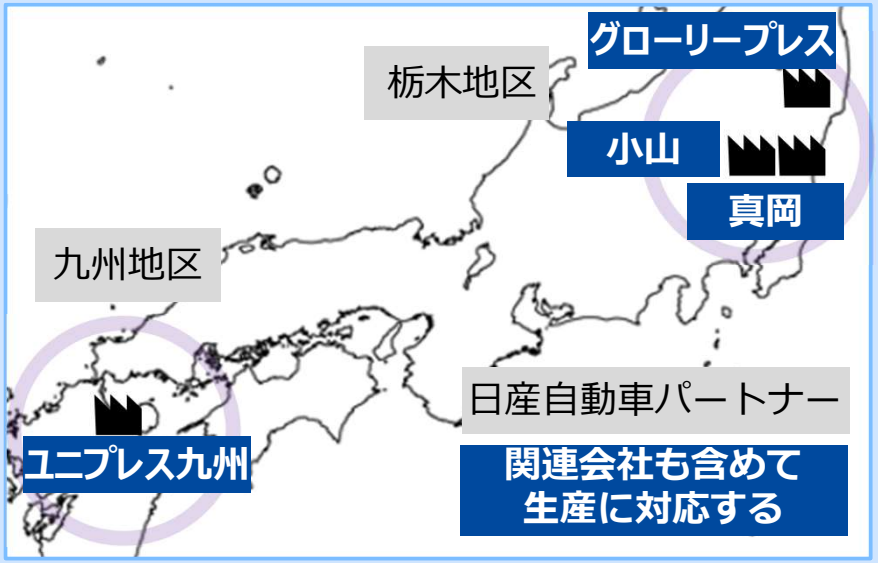
【構造改革】最適な生産体制の構築

- 2028年度までに日本拠点の最適生産体制構築を完了
- 日産自動車の日本国内の生産再編にも対応可能

日産自動車は日本国内年間100万台生産を目指す

- **九州地区： B・Cセグメント車/フレーム車/LCV（小型商用車）**
- **栃木地区：スポーツカー、電気自動車、ミニバン**
- **日産自動車パートナー**

当社の国内生産体制（車体）

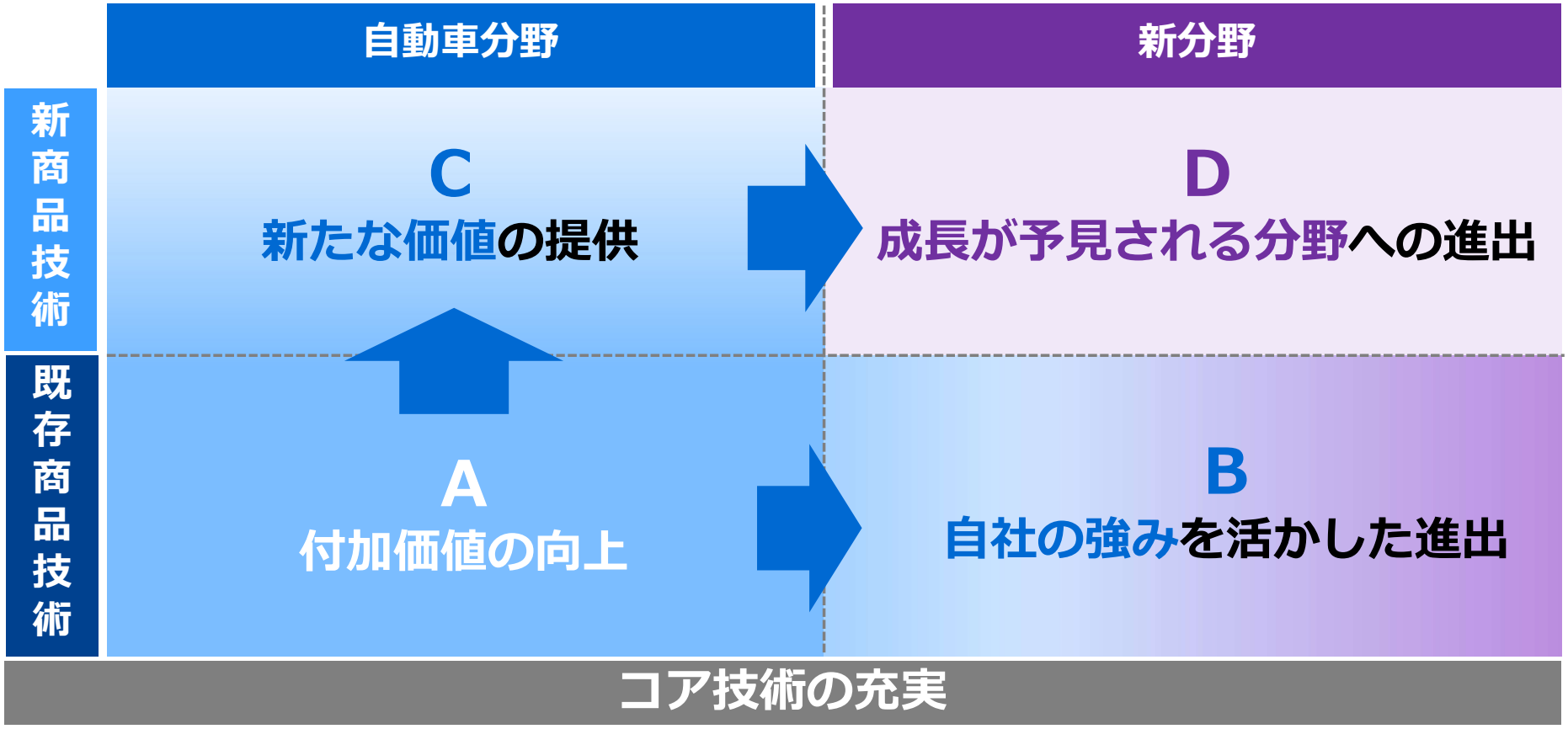


車両生産工順の再編計画

		26年度	27年度	28年度	29年度
九州へ生産移管	KICKS		追浜 生産終了・移管 / 九州 生産開始		
	NOTE			追浜 生産終了 / 九州 生産開始	
	NEW B-seg model			九州 生産開始	TBD
栃木へ生産移管	SERENA		九州 生産終了 / 栃木 生産開始		
	ELGRAND		九州 生産終了・移管		TBD / 栃木 生産開始

【成長戦略】戦略的技術開発の充実・加速

基盤となるコア技術の一層の充実により、既存商品の付加価値を
高めるとともに、将来の新商品・新分野を見据えた戦略的技術開発を推進



【成長戦略】車体・樹脂プレス部品開発の進捗

自動車分野	【A】既存商品技術	車体	■ **バッテリーケース開発** ・小コーナーRバッテリーケースの引合いを複数受領 (バッテリーセルの積載効率改善) ■ **スチール部品の更なる高強度化** ・ホットスタンプ2.0GPa材適用部品を国内拠点初の量産開始 ・ホットスタンプ赤外線強度分け部品の試作を受注
	【C】新商品技術	車体	■ **車体骨格部品統合** ・フロントフロア　一体化部品の量産を開始 ・ドアリング等の引き合いを複数受領
		樹脂	■ **多機能化** ・吸音機能を付加した商品の開発を推進中 ・複層化や新たなフィラー活用の可能性を検討中
新分野	【B】既存商品技術		・小コーナーR成形技術を適用したケース部品の引合いを複数受領
	【D】新商品技術		・業務用エアコン　室外機コンプレッサー部品の量産開始 ・吸音機能を付加した樹脂商品の適用を検討中

【成長戦略】スチール部品の更なる高強度化

骨格部品統合とスチール部品の更なる高強度化の適用技術の推進によって、
ホットスタンプの一体化部品と2.0GPa材の適用部品を量産開始

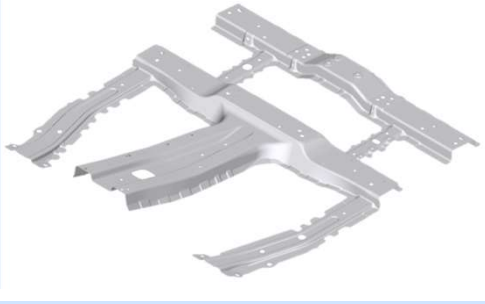
【東風日産 NX7】

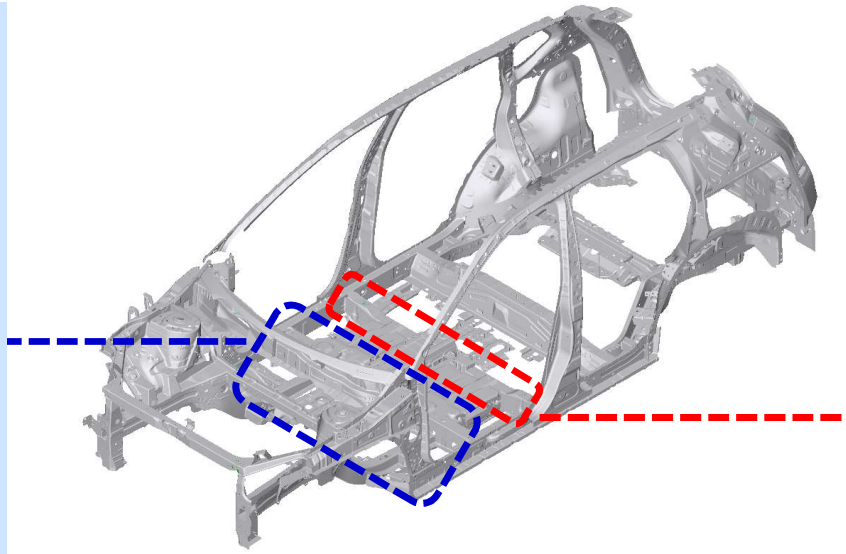


◆ 量産開始部品

フロント フロア クロス メンバー

ホットスタンプ 一体成形





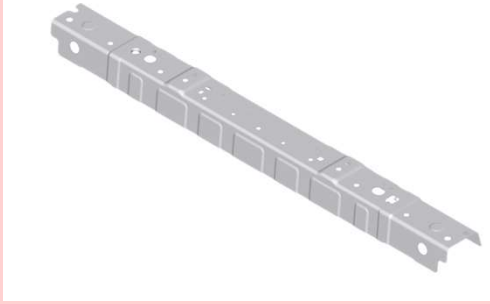
【日産 エルグランド】



◆ 量産開始部品

レインフォース バッテリー フロア リア

ホットスタンプ 2.0GPa材



【成長戦略】精密プレス部品開発の進捗

自動車分野	【A】既存商品技術	■ **HEV/PHEV/BEV 部品** 新たにHEV/PHEV、BEV部品の引き合いが増加中 ・HEV：複数の顧客から受注を獲得 新たな顧客からの引合いも検討中 ・BEV：e-Axle構成部品を受注
	【C】新商品技術	■ **BEV部品** 新たな工法開発による引合いが増加中 ・e-Axle構成部品を受注 ・駆動系構成部品の引合い及び協働検討の依頼を受領
新分野	【B】既存商品技術	■ **産業機械/農業機械用部品** ・ロボット、トラクター等の駆動系構成部品の 鍛造・鋳造のプレス化・仕上げ加工削減を客先提案中
	【D】新商品技術	■ **産業機械/蓄電システム用部品** ・蓄電システムの構成部品について引合いを受領 ・減速機、油圧ポンプ構成部品の開発に着手（仕上げ加工レス）

【成長戦略】戦略的技術開発の充実・加速

2026年度上期　量産開始車種

日産



キックス （日本）



エルグランド （日本）


ローグ ハイブリッド（日本）



NX7（中国）


QX65（アメリカ）



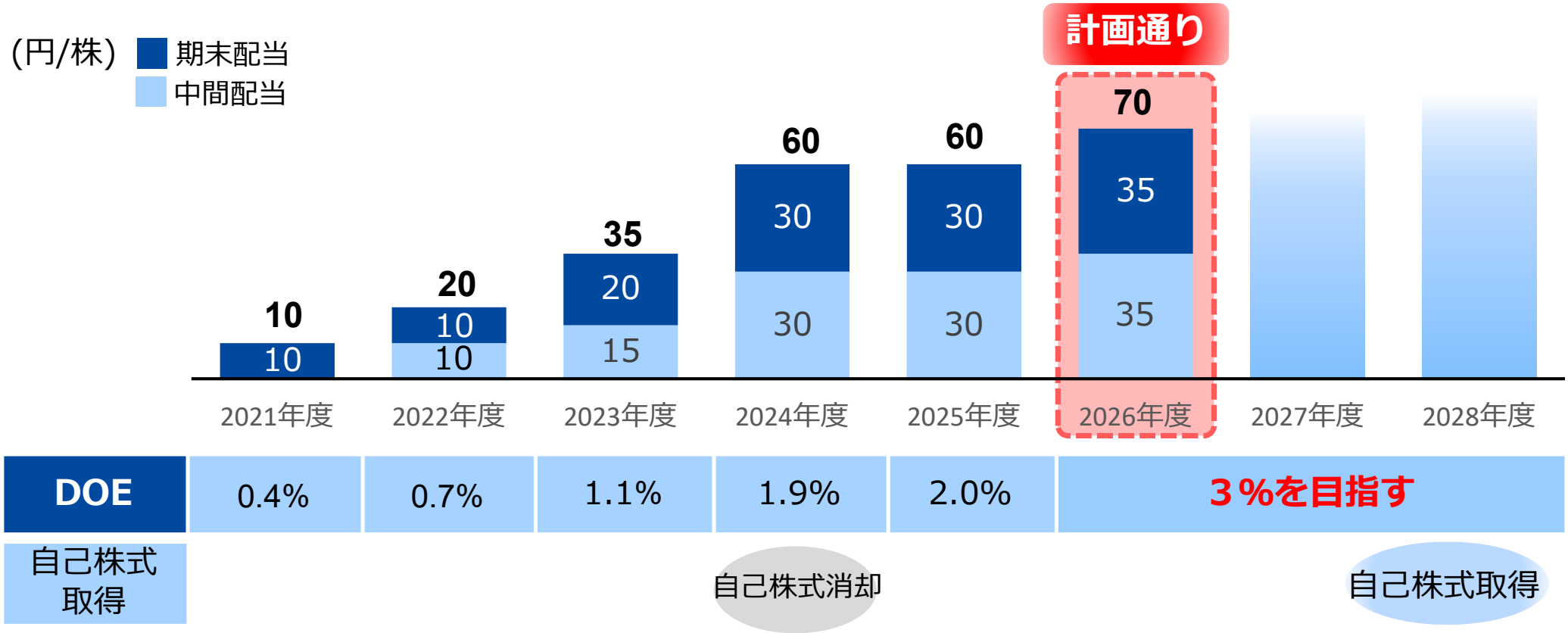
テクトン（インド）

ホンダ


Super-ONE（日本）

株主還元の充実

- 配当は引き続きDOEを指標とし、中期的に３％を目指す
- 適切な自己資本の水準を維持しつつ、配当の強化を軸に自己株式取得も選択肢



得意先からの評価

品質、納期やコストに関する賞を多数受賞

■車体プレス部品
■精密プレス部品

<メキシコ日産>
Regional Quality Award of North America



<日産自動車>
品質感謝状



<ジヤトコメキシコ>
Timely and Reliable Commitment Fulfillment Delivery



< AISIN WORLD CORP. OF AMERICA >
Quality and Delivery Award



<スズキ・インドモービル・モーター>
Cost Reduction Performance



得意先からの評価

カーボンニュートラルに関する賞を受賞

<マツダ>
カーボンニュートラル目標達成賞



感謝状

カーボンニュートラル目標達成賞

ユニプレス株式会社 殿

貴社はカーボンニュートラル実現
にむけて積極的に取り組まれ
目標である2013年度比CO2
排出量半減を実現されました
そのご尽力に対しここに感謝の
意を表します

2026年3月13日

マツダ株式会社
代表取締役社長 毛籠勝弘

「サステナビリティレポート2026」発行

当社のサステナビリティに関する取り組みをまとめた
「サステナビリティレポート2026」を発行



サステナビリティレポートは当社ホームページからご覧いただけます。 https://www.unipres.co.jp/csr/report



プレスの力で、未来にプラス。

前提為替レート

参考

（円）

	2025年度　上期		2026年度　上期		2026年度 見通し前提
	期中平均	期末	期中平均	期末	
米ドル	146.09	148.89	160.05	157.33	145.00
英ポンド	192.99	198.58	213.12	215.13	190.00
ユーロ	162.21	169.64	184.83	185.44	165.00
メキシコペソ	7.42	7.69	9.08	9.29	7.90
人民元	20.35	20.20	23.13	23.88	20.50
インドルピー	1.69	1.68	1.68	1.64	1.60
インドネシア ルピア	0.0090	0.0089	0.0092	0.0091	0.0085

資料取り扱い上の注意

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で当社が知りうる情報をもとに作成されたものです。
あくまでも現時点での将来予想であり、リスクや不確定要素を含んでいるため、実際の業績はかかる予想と大きく異なる結果となることがあります。
それらのリスクや不確定要素のうち、主なものは以下のとおりですが、これらに限られるものではありません。

- 主要市場（日本、米州、欧州、アジア等）の経済状況、消費動向、及び自動車業界得意先メーカー各社の業況・戦略等に伴う製品需給の急激な変動
- 原油価格や鋼材価格の高騰に伴う当社製品製造コストへの影響
- 為替相場の大幅な変動
- 金融・資本市場における金利等の変動　など